



あなたも
チャレンジ

家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

エンドウ マメ科の連作に注意

図1 畑の準備1

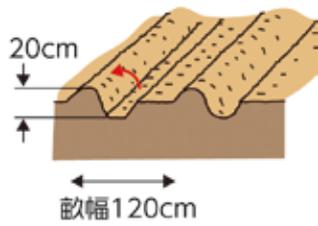


図2 畑の準備2

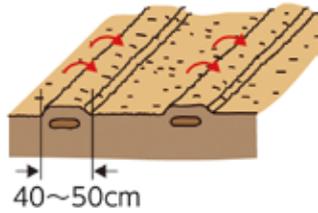


図3 種まき

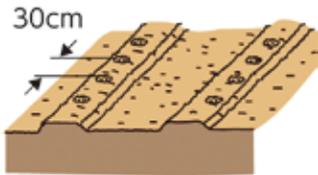
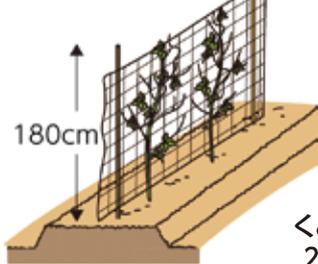


図4 支柱立て



エンドウには若いさやを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、そして若く充実した豆を取る実取りエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。

【品種】 サヤエンドウでは、「ニムラ白花きぬさや」(みかど協和)、「砂糖エンドウ白星」(松永種苗)など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」(みかど協和)、「スナップ7753」(サカタのタネ)などがあります。

【種まき】 一般地では10月中旬～11月上旬が適期で、早まきして年内に生育が進み過ぎないことが大切です。じかまきでは、株間30cm程度、1カ所4～5粒をまきます(図3)。

【追肥】 春先に生育の勢いが良くなくなり始めた頃と開花始め頃にそれぞれ化成肥料を畝1m当たり10g程度、スナップエンドウ、実取りエンドウ

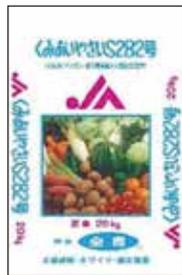
幅120cmを取り、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料(N:12 P:8 K:12)100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜて幅40～50cmの畝を作ります(図1・2)。

【病害虫の防除】 さやができる頃からハモグリバエが多発しますので、アディオン乳剤などを使用基準に従って防除します。うどんこ病には、トリフミン水和剤などの農薬で予防します。

【収穫】 サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形となる開花後25日前後です。

【支柱立て】 早春から生育が盛んになり、つるあり種ではつるを絡ませるため支柱を立ててネットを張ります(図4)。

オススメ肥料



くみあいやさいS282号
20kg入2,541円(税込)

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

ではさらにさやの肥大期にも同様に追肥します。追肥後は株元に土寄せをしておきます。

【病害虫の防除】 さやができる頃からハモグリバエが多発しますので、アディオン乳剤などを使用基準に従って防除します。うどんこ病には、トリフミン水和剤などの農薬で予防します。

【収穫】 サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形となる開花後25日前後です。



ベランダでできるキッチンガーデン

イチゴ

(バラ科オランダイチ科属)

土壌医 ● 藤巻久志

イチゴはベランダでも簡単に栽培できます。10月になるとキッチンガーデン向きの品種の苗がホームセンターなどの店頭並びます。ポット苗に付いているラベルの写真と説明を見て、好みの苗を購入します。深さ15cm以上のプランターをベランダの日当たりの良い所に置き、市販の培養土を入れます。株間15～20cmに、クランソング(根茎部分)の根元が見えるくらいに浅植えします。土が乾いたら冬でも水やりをします。

活着する11月上旬～中旬と、葉茎が本格的に伸びてくる2月下旬～3月上旬に1000倍の液肥を1週間置きに施します。黄色く枯れた葉や赤くなった葉は、葉の付け根から丁寧に引き取ります。

品種やその年の気候によっても多少異なりますが、5～6月に収穫できます。赤くなつた物から収穫します。果実には手を触れずに、果梗のところを爪で摘み取ります。収穫が終わると、親株からランナーが伸びて子株ができます。この子株を育てて苗を作ります。これを毎年繰り返し返します。

数年後にイチゴを収穫しながらこのイチゴは○○ちゃんが生まれた年から栽培しているのだよという話ができるかもしれません。

